

令和3年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

外国語活動

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
3年	○主体的にコミュニケーションを図ることに個人差がある。	○外国語を使いたくなる場面設定をする。 ○変化をもたせながら、歌やチャンツ、ジェスチャーを多く取り入れ、楽しみながら外国語の音声やリズムに慣れ親しませる。	○全員が役割のある場面設定をしたことで9割は主体的活動ができた。待つ児童の支援が課題である。 ○変化をもたせて行ったことで、楽しんで慣れ親しませることができた。
4年	○学習したことを活用してコミュニケーションを図ることが難しい。	○語彙のみだけでなく、文で伝え合うことが多くなるよう、スモールトークでパターン化したものを取り入れる。	○全体では、文で言うことができるようになった。 個になると活用でない児童がいることが課題である。友達とのやり取りの中で学ばせたい。
5年	○自分のことや身近な事柄について話すことに自信がない児童が多い。	○ペアや少人数グループなどで必然性のあるやり取りの場面を設定し、自信をもたせる。 ○聞き手にも相手意識をもたせる。	○場面設定をしたことで、児童の活動意欲が高まった。 ○やり取りの中で相手意識をもたせていくことが課題である。
6年	○外国語を聞くこと、話すことの経験や能力に個人差が大きい。	○やり取りやスピーチの場面を設定し、相手が分かるような伝え方の工夫を意識させる。 ○歌やチャンツ、スモールトークで、繰り返し外国語での言い方に慣れ親しませる。	○伝え方の工夫を楽しむことを意識させたことで、聞き手が分かる単語や速さで伝えようとする児童が増えた。 ○始めは聞いていた児童も単元の最後には自信をもっていえるようになった。学級の雰囲気大切であった。

